

中倉 幸雄

審査会は、大分市クラスス武道スポーツセンターにおいて実施されました。合格された皆様に心よりお祝い申し上げます。

審査会で感じたことを述べさせていただきます。

【実技審査について】

昨年の講評で、初段受審者の面紐が長い、左右側部の面紐が揃っていない等の着装についてご指摘させていただきました。今回はその点につきましては改善され大変良かったと思います。ありがとうございました。

少し残念な点を説明します。全体的に初太刀を安易に仕掛けてしまい、互いに面技の応酬となっていた内容が多かったように感じました。

二段は、最初から最後まで打ち掛かっていくのではなく、相手の隙をついて仕掛けたり応じたりすることが出来るとよいと思います。

三段は、攻めのある打突がポイントです。スピードで勝つ打突ではなく、剣先で相手の中心を攻め、攻め勝って打つことが要求されます。いかに自分の間合いをつくって有効な打突を打つかという、打突までの過程が見られます。

四段および五段は、「勝負の歩合」を争う中にも、先を取って相手を崩して打突の機会を創る事が重要です。短い審査時間に気の焦りがあったと思いますが、攻めや溜めもなくただ技を仕掛けている内容が見受けられました。打突の機会を捉えて打つことを覚えるには、普段の稽古から攻め勝って打つことを意識することが大切です。

平素から基本に沿った正しい稽古を積み重ね、事前の準備を万全にしていれば落ち着いて審査に臨めるものです。皆さま方の更なるご精進をご祈念申し上げます。

【日本剣道形審査について】

昨年の講評では、初段、二段、三段受審者の明らかな稽古不足を指摘させていただき指導にあたられる先生方への再考をお願いしました。

今回は先生方のご理解とご指導のより上達を感じました。ありがとうございました。四段、五段では、日頃の鍛錬の成果が表れ、自信に溢れ、段位にふさわしい形を打った人が多く見られました。しかし、一方では気迫に欠け形の約束事をなぞっているような人も散見されました。

「形は竹刀剣道の高まりと軸を一にすると云われますが、実技同様、鍛錬の成果が表れていて・・・」（剣道範士 遠藤勝雄 剣窓抜粋）

この内容は剣道七・六審査会（剣道形）寸評です。

形はすぐに身に付くものではなく継続が大事であるということ、日頃の形稽古の重要性を解かれているのだと思いました。

全剣連から発行されている『日本剣道形解説書』『講習会資料』を熟読玩味され、実技と形を車の両輪として、共に修練されますようよろしくお願い申し上げます。

以上、参考にしていただけると幸いです。